

夏涼しい黒滝の地を尋ねて

環境良く通勤も可能 キャンプ場に最適

★黒滝小学校の校舎は二つあるのですね。

▼一つは新しいですが、もう一つは古くなっています。

▼古い方は井の沢から壊して持ってきたものです。現在使っている校舎は、昭和三十九年の台風で校舎が壊れた時に簡易鉄骨で建てたものです。

▼このあいたは、校舎の屋根が真赤にさびていたのでめり変えましたよ。自分でやったわけですが、去年、今年と要望が実現しませんでした。

▼このままでは腐ってしまうというので、自分たちでペンキぬりをしましたが、百坪くらいで四日程かかりました。

★教室はいくつありますか。

▼古い校舎が四部屋、新しい校舎が三部屋、それに宿直室と工具室があります。

★アメゴとかウナギとか、何か養殖をやって、校舎のあとを国民宿舎のようなものを利用するのはどうでしょうか。南国市には国民宿舎というものが無いので、将来ここに遊憩地として、運動場も利用できるものがあれば人も呼べると思うんですが……。山菜料理とか

国民宿舎で人も呼べる……

魚料理を出して、田舎の国民宿舎で売り出している所も多いようですね。

▼静かな山奥に国民宿舎を、という意向を出しておいていいですね。

▼国民宿舎はさておき農協出張所も立派なものがありますが、農協も運営がむづかしく、このままでは近い将来出張所として存在がむづかしいとの話がありました。

▼それは地区としても大変なことですね……。

▼職員の配置ができないとなれば仕方がないですが、できる限り農協出張所をおいてほしいと要望しております。

▼いろんな面において、この地区での生活環境が次第に不便になっていく感じがします。

▼若い人が魅力を感じる仕事がないのが現実ですね。

社会教育施設にして残しておきたい校舎

★私が考えますのに、今は過疎と化してしまっても、いろいろ時代も変わりますので学校に近い将来絶対に必要になってくると思うので。

▼まだ依然として残っているのは石灰石ですが、まだ手つかずの鉱区があります。それからマンガン

▼この地区については、特に中の川に営林署の事業所があり、ダムと開発のすぐ後で、木材の生産事業を中止しました。

▼このようなことが重なり、人口が急激に減少しました。

▼割合に、道路が整備されていまして、高知市や後免へ若い人なら通勤可能なわけです。

▼しかし、若い人も家庭をもつと黒滝を出て行ってしまいます。

★若い人がいなくなると、黒滝もさびれていってしまいますね。

▼黒滝も平日はそんなに感じませんが、土曜日の午後や日曜日になると多くの人々、遠くは県外ナンバーの人々が遊びに来ます。

▼ダムで鯉がつかれることを聞いて来るのですが、平日は美しい自然以外に何も無い所ですよ。

★この地区の振興策は、検討されたいことがありますが、観光面とかでは……。

▼とりあえず考えていることは、キャンプ場に最も適しているのではないかと言うことです。

▼昨夜も、川原にテントがだいぶ出たようですが、キャンプに来る人たちの公衆便所がないのが困っています。

▼学校まで借りに行くのはめんどくさいということで、そのあたりで用をたすという人もいますよ。



岡本 政さん



高橋 茂さん

▲よほど管理のことをしっかり考えておかないといけないですね。台風の時なんか、先生の宿舎がたおれかかりはしないだろうかという心配もあります。

▼それから、校庭も赤土でほとんど水がしゅまみです。もしつまってしまつと、人家にもろに水がいく恐れがありますよ。

▼参考までに申しますと、今年の三月に廃校となった香美郡の舞川の校舎のあとを、社会教育施設に使うということで、維持管理のために用務員さんをおいているようです。

★とにかく、壊すことについてはいつでもできるのですから、いかにして維持していくかというのは地元の人々の一つのファイトだと思います。もう少しやる気を出すことが必要なのではないでしょうか。今日はお忙しいところをお集りいただき、ありがとうございます。

生徒は一人 暗くない住民



佐竹 正寛さん

★今日は黒滝に来て、南国市最北端の環境の良い所を見せていただきました。また、きれいな水に入り、「せいらん」を探らせてもらいました。今回の広報座談会では、みなさんの日頃の暮らしの状況とか、過疎という状況とか、みなさんの苦労を聞かせていただき広報紙でPRしたいと思っています。

▼まず、黒滝小学校は生徒一人になつていますが、まずそのあたりから話していただきたいと思いますが……。

▼私はこの学校へ来て二年目になります。



仁尾 敏さん

▼この学校は地域文化のカラーです。校舎は今後社会教育施設にでも利用できるように残していただきたいと思っています。

▼地域としては、校舎の古い方は保存がなかなかむづかしいので、新しい方を地域の集会所として整



小笠原 巧さん

★この地区が過疎になったのはいつ頃からですか。

▼昭和三十年代初めの電源開発により急激に人間が分散してしまつたことも、黒滝地区が過疎になった原因の一つです。それと、もう一つは、大正の終りから昭和の初めと思いますが、相当有望なマンガン鉱があり、その関係で案外よそからの人も入って来ていました。ところが水没によって鉱区の採掘ができなくなりました。

黒滝の過疎化 三十年代から

▼市の財政もなかなか大変なことだと思いますが、まずこんな所からでも徐々に整備していただきたいと思っています。

▼また、学校に生徒がいなくなつた後をどうするかということも、まだ全員ではないのですが、地区で話し合っています。

▼問題は、建物をおいてもらうのはいいですが、市では維持管理についてどの程度予算がつけられるかということですね。

▼全部の建物を残すというわけにはいかないと思いますが、古いものは整備していけばいいと思います。

▼それに、地区の基幹産業である林業の振興ということも大きな問題です。

▼この地区の林業の仕事としては、戦後植えられた木の間伐とか、手間のかかる生産の上がらない仕事も主体になります。そのためには道の整備が必要です。

▼約四、五ある旧軌道を市が国から払い下げてもらっていますが、数年前に半分は二、三台は二、三車が通れる程度に整備されています。払い下げの条件は、市道として市が維持管理をするということでしたので、林業振興のためにもこれを早急によつてもらいたいと思います。

南国市の面積は南北に長い形をしています。その最北端の黒滝地区は、市役所から車で一時間たらずで行ける地にあり、夏でも汗ばむことを知らない程涼しい、自然の満ちあふれた所です。

ある夏の暑い日、広報委員会はこの黒滝を尋ね、住民のみなさんの生活ぶりや、いろいろなエピソードを聞かせていただきました。市民のみなさんも時には、この俗化されていない黒滝を訪れ、静かな一日を過ごしてみたいかですか。

話された人

- 正寛 (黒滝)
 - 敏 (大改野)
 - 茂泰 (黒滝)
 - 政 (黒滝)
 - 巧 (黒滝小)
- 佐竹 正寛
仁尾 敏
高橋 茂泰
岡本 政
小笠原 巧
- 広報委員